西南学院大学　人間科学論集　第 18 巻　第 1 号　　163 ― 175 頁　2022 年 8 月

# 保育所における
# 高い敏感性をもつ子どもの保育（1）

## ― 計量テキスト分析を用いて ―

山　　本　　佳 代 子

# Practicalities of Caring for Highly Sensitive Children in Nursery School (1)：
# A Quantitative Text Analysis

Kayoko Yamamoto

**要旨**

乳幼児期の敏感性の高い子どもの保育の実際について明らかにすることを目的として、保育士の保育経験について半構造化インタビューを行った。対象は保育所保育士 16 名で、実施期間は 2021 年 11 月～ 12 月であった。

調査から得られたデータは、計量テキスト分析ソフトである KH Coder を用い、頻出語、共起ネットワーク、階層的クラスター分析を行った。テキストデータからは 21,477 語が抽出された。共起ネットワークでは共起関係のある 47 語が抽出され、2 ～ 13 語から構成される 11 グループに分けられた。また、クラスター分析では「高敏感な子どもの繊細さ」「思慮深さと些細なことへの気づき」「大人びた言葉」「保育士が想起した高敏感な子どもの事例」「高敏感な子どもと遊び」「高敏感な子どもが苦手なもの」「発達障害」「HSC（Highly Sensitive Child）チェックリスト」「保育士が経験上感じた高敏感な子ども」「保育における対応」の 10 クラスターが抽出された。

保育所保育士らは高い敏感性をもつ子どもの保育経験を有しており、HSC（Highly Sensitive Child）の特性に該当する行動が保育場面で観察されること

が明らかになった。しかし、発達障害のある子どもとの弁別は明確ではなく、保育現場において HSC 概念の理解が促進されるための方法を検討していく必要があると考えられた。

## Ⅰ　研究の背景と目的

僅かな刺激にも反応を示す敏感な気質をもつ子どもがいる。このような高敏感な感受性を示す気質をもつ子どもを Highly Sensitive Child（HSC）の概念で説明した研究があり、我が国においても高い敏感性をもつ子どもや子育てのあり方に関する研究や書籍等が見られるようになった（例えば串崎 2018；長沼 2017）。Aron&Aron は脳内で感覚情報を処理するプロセスの生得的な個人差を感覚処理感受性（Sensory-Processing Sensitivity：SPS）と定義し、感覚処理感受性が高い人は「些細な刺激に敏感で刺激過剰になりやすく、新奇刺激に対し次の行動を決定する前にこれまでの個人の経験と照合し確認する必要がある」としている（Aron&Aron 1997）。Aron は SPS を内向性や神経症傾向などとは異なる概念である説明し、SPS が高い人を「Highly Sensitive Person：HSP」と命名した。このような高い敏感性をもつ人は、①深く処理する（Depth of processing）、②過剰な刺激を受けやすい（being easily Overstimulated）、③感情的に反応しやすく、共感性が高い（being both Emotionally reactive generally and having high Empathy in particular）、④ささいな刺激を察知する（being aware of Subtle Stimuli）といった 4 つの基本的な特性があるとし、頭文字から「DOES」と表した（Aron2002＝2015）。

Aron は同様に敏感性の高い子どもを「Highly Sensitive Child」と称し、①細かいことに気づく、②刺激を受けやすい、③強い感情に揺さぶられる、④他人の気持ちにとても敏感、⑤石橋を叩きすぎる、⑥よくも悪くも注目されやすい特徴をもつことを説明している（Aron2002＝2015）。高い敏感性をもつ子どもは環境からのネガティブ、ポジティブ両方の体験から影響を受けやすいことがわかっている（Belsky&Pluess 2009）。また子ども期にポジティブな育児や質の高い保育環境に置かれた場合、成人期の外在化問題が少ないとされる（Slagt et all.2018）。このことは高敏感な子どもの気質をポジティブな側面からとら

え、周囲の養育者らがそれを高めていくことができるよう、子どもにかかわることの重要性を示唆している。

しかし、周囲の刺激に強く反応する感受性の強い子どもの行動は時に親の子育てを困難にし、子どもの適切なニーズに対応することを妨げるリスクをもつ。高い敏感性をもつ子どもは、受け身でストレスを感じやすく、内向的であると表現され、ネガティブにとらえられやすい（Baryla-Matejczuk et al.2020）。気質的に扱いが難しいと感じる子どもに対し、親は負担感を感じる傾向にあり、育児不安との関連性も報告されている（西野 2005；武井ら 2006）。このように環境刺激への感受性が高く、影響を受けやすい敏感な子どもに対しては、それらの困難を軽減するための個別な配慮が求められる（岐部 2019）。国内で出版された敏感性の高い子どもの子育てに関連する書籍からは、親が敏感な気質をもつ子どもに対し受容・共感・支持する態度をもつこと、ネガティブに捉えられる気質側面にアプローチする力や子どものつよみに着目し、それらを伸ばすことが HSC の子育てのポイントとして述べられている（長沼 2017；長岡 2019；杉本 2021）。子どもの育ちにかかわる周囲の人々が高敏感な子どもの気質を理解し、適切なはたらきかけを行うことが子どもの育ちには不可欠であろう。

また、高い敏感性をもつ人は人口の 20 ～ 30% 程度存在することが報告されている（Aron&Aron 1997；Pluess et all.2018）。これをふまえると、家庭や社会的養育の場である保育や教育の場等においても高敏感な気質特性を示す子どもが一定数在籍していることが推察される。しかし、我が国では、HSC の認知度等が高いとは言えず、研究領域においても HSC を中心とした生得的に高い敏感性をもつ子どもの育児や保育に関連した先行研究は十分ではない。高い敏感性をもつ子どもたちの気質特徴をふまえると、乳幼児期から一人ひとりのニーズに応じたアプローチのあり方を検討していくことは重要な課題である。

そこで、本研究ではまず乳幼児期の子どもの保育に焦点を当て、保育所保育士へのインタビュー調査を通し、敏感な感受性を示す気質をもつ子どもに対する保育士の保育経験からをもとに、その保育の実際について明らかにすることを目的とした。

## Ⅱ　方法

### 1．調査対象

2021 年 11 月～ 12 月に保育所保育士を対象にインタビュー調査を実施した。高い敏感性を示す気質をもつ子どもの出現率は子ども全体の 2 割程度と報告されていることから（Aron&Aron 1997）、多様な特性をもつ子どもや保護者支援の経験値が比較的高いと想定される保育士を対象者として想定した。研究者より協力依頼が可能な保育所等 3 カ所の管理者等に対し研究説明を行い、承諾を得たうえで対象保育士を選定いただいた。最終的に 16 名の保育士に本研究への参加協力の同意を得た。

### 2．調査方法

研究参加者の所属施設において、インタビューガイドに沿って半構造化面接を実施した。インタビュー時間は研究参加者 1 人につき、約 40 分であった。内容は研究参加者の許可を得たうえで IC レコーダーに録音し、逐語録を作成した。

調査内容は、基本属性、保育士としての経験年数の他、「とても敏感」であると感じた子どもへの保育経験、子どもと保護者の状況、保育士によるかかわりおよび HSC に対する自由意見とした。その際、HSC に関する一般的な認知は十分ではないことが予測されたため、インタビューガイドには研究参加者の高敏感な子どものイメージを補うため、Aron（2002＝2015）により作成された「HSC かどうかを知るための 23 のチェックリスト」を掲載し、適宜それらを参照し、インタビューを実施した。項目は表 1 のとおりである。

### 3．分析方法

分析には計量テキスト分析ソフトである KH Coder を用いた。計量テキスト分析とは、計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理・分析し、内容分析を行う方法である（樋口 2021）。分析対象はインタビューの逐語録とし、記録から研究参加者が保育現場で出会った高敏感な子どもと保護者、保育士によるかかわりに関する記述を抜粋し、データとして用いた。

**表 1　HSC かどうかを知るための 23 のチェックリスト**

| |
|---|
| 1. すぐにびっくりする |
| 2. 服の布地がチクチクしたり、靴下の縫い目や服のラベルが肌に当たったりするのを嫌がる |
| 3. 驚かされるのが苦手である |
| 4. しつけは、強い罰よりも、優しい注意のほうが効果がある |
| 5. 私の心を読む |
| 6. 年齢の割りに難しい言葉を使う |
| 7. いつもと違う臭いに気づく |
| 8. ユーモアのセンスがある |
| 9. 直感力に優れている |
| 10. 興奮したあとはなかなか寝つけない |
| 11. 大きな変化にうまく適応できない |
| 12. たくさんのことを質問する |
| 13. 服がぬれたり、砂がついたりすると、着替えたがる |
| 14. 完璧主義である |
| 15. 誰かがつらい思いをしていることに気づく |
| 16. 静かに遊ぶのを好む |
| 17. 考えさせられる深い質問をする |
| 18. 痛みに敏感である |
| 19. うるさい場所を嫌がる |
| 20. 細かいこと（物の移動、人の外見の変化など）に気づく |
| 21. 石橋をたたいて渡る |
| 22. 人前で発表する時には、知っている人だけのほうがうまくいく |
| 23. 物事を深く考える |

引用：『ひといちばい敏感な子』エレイン・N・アーロン著　明橋大二訳 1 万年堂出版（2015）28-29 p

まずテキストデータの形態素分析を実施し、どのような語が多く抽出されたかを確認するため頻出語の抽出を行い、リスト化した（表 2）。次に、語の出現パターンの似通った語の組み合わせにどのようなものがあるかを明らかにするために、共起ネットワーク図の作成および階層的クラスター分析を実施した。これらの分析プロセスでは、KWIC（keyword in context）コンコーダンスを用い、テキストデータから文中の語の使われ方について繰り返し確認を行った。

## 4．倫理的配慮

調査にあたり、対象者には口頭および文書で情報保護、調査拒否の自由、調査結果の厳重管理などについて説明し、文書にて研究参加協力の同意を得た。研究参加者の管理者等には別途文書にて研究説明を行った。なお、本調査は西

南学院大学の研究倫理審査の承認を得て実施した（2021 年 6 月 3 日承認、承認番号 2021-1-3）。

## Ⅲ　結果

### 1．研究参加者の概要

インタビュー調査は保育士 16 人の参加協力を得た。全員女性で、保育士経験年数は 4 ～ 41 年であった。経験年数の内訳は 4 年が 3 人、12 年が 1 人、13 年が 2 人、15 年が 1 人、18 年が 1 人、20 年が 1 人、27 年が 2 人、32 年が 1 人、33 年が 1 人、35 年が 2 人、40 年が 1 人であった。また、参加者の年代は 20 代と 30 代が 3 人、40 代が 5 人、50 代が 4 人、60 代が 1 人であった。

### 2．高い敏感性をもつ子どもの保育

(1) 語の抽出

頻出語のリスト化にあたり、インタビュー逐語録を探索し、「保育士」「保育者」や「子ども」「子」「お子さん」など同義語として見なされる用語については統一した。複合語の分割を防ぐために、「保護者」「保育士」「保育所」「チェックリスト」を強制抽出の設定を行い、インタビュー時の相づちなど分析対象として不要と判断した語などを取捨選択し、分析前に除外した。

結果、総出語数 21,477 語、回答の異なり語数 2,465 語、出現回数の平均 8.71、標準偏差 47.47 であった。抽出語リストには 30 回以上出現した語を出現頻度が高いものから 70 語を記載した（表 2）。出現回数が多かった語は、「子」「感じ」「敏感」「見る」などであった。

(2) 共起ネットワーク

共起ネットワークとは、共起の程度が強い語が線で結ばれたネットワークのことで、線が太いほど強い共起関係にあることを示す（樋口 2021）。分析では語の最小出現数を 30 回、描画数は上位 60 で設定した（図 1）。表示された線の太さは共起関係の指標である Jaccard 係数の高低を示している。同一のサブグラフは実線で、異なるサブグラフ間は点線で表されている。

**表 2　頻出 70 語一覧**

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 子 | 945 | 遊ぶ | 61 | 男の子 | 36 |
| 感じ | 291 | 入る | 56 | 質問 | 35 |
| 敏感 | 189 | 保護者 | 54 | 対応 | 35 |
| 見る | 146 | 言葉 | 52 | チェックリスト | 34 |
| 自分 | 128 | 持つ | 50 | 保育所 | 35 |
| 分かる | 128 | 前 | 50 | 経験 | 34 |
| 嫌 | 105 | 困る | 48 | 友だち | 34 |
| 保育 | 96 | 強い | 46 | お話 | 33 |
| 人 | 90 | 特に | 45 | 一緒 | 33 |
| 気 | 85 | 読む | 45 | 気持ち | 33 |
| 先生 | 85 | 手 | 44 | 苦手 | 33 |
| お母さん | 84 | 話 | 44 | 好き | 32 |
| 多い | 82 | 発達 | 43 | 項目 | 32 |
| 聞く | 78 | タイプ | 42 | 大きい | 32 |
| 感覚 | 74 | 行動 | 42 | 保育士 | 32 |
| 行く | 71 | 嫌がる | 41 | 気づく | 31 |
| 出る | 71 | 泣く | 40 | 駄目 | 31 |
| 難しい | 70 | 障害 | 40 | 部分 | 31 |
| 違う | 69 | 本人 | 40 | 変化 | 31 |
| 音 | 68 | 一番 | 39 | 見える | 30 |
| 考える | 68 | 大人 | 39 | 声 | 30 |
| 感じる | 66 | 遊び | 39 | 年齢 | 30 |
| 当てはまる | 63 | 具体 | 37 | | |
| 歳 | 62 | 周り | 37 | | |

結果、共起関係にある 47 語が抽出され、2 ～ 13 語から構成される 11 のグループに分けられた。構造としては、「子」を中心に「保育」「多い」「分かる」「感じ」「気」「自分」「行く」「手」「出る」「音」間でサブグラフが形成された。このサブグラフは全体としてノードのサイズが大きく、保育における気になる子どもがグラフの主要部分であることを示している。また、「敏感」「違う」「聞く」「感じる」「行動」「経験」「感覚」「持つ」「嫌」「嫌がる」の他児とは異なる感覚の敏感さに関連したカテゴリー、「人」「周り」「大人」「見る」の周囲の人を見ることに関連したカテゴリー、「発達」「障害」「部分」の発達障害に関連したカテゴリーが形成されていた。これらの 3 カテゴリーは主要部分と点線でつながれていた。

一方、「難しい」「言葉」、「大きい」「音」、「質問」「読む」、「保護者」「お母さん」「保育所」「一番」、「男の子」「歳」「年齢」、「チェックリスト」「当てはまる」

「項目」、「遊び」「一緒」で形成されたカテゴリーについては他のサブグラフ間の関連は見られなかった。

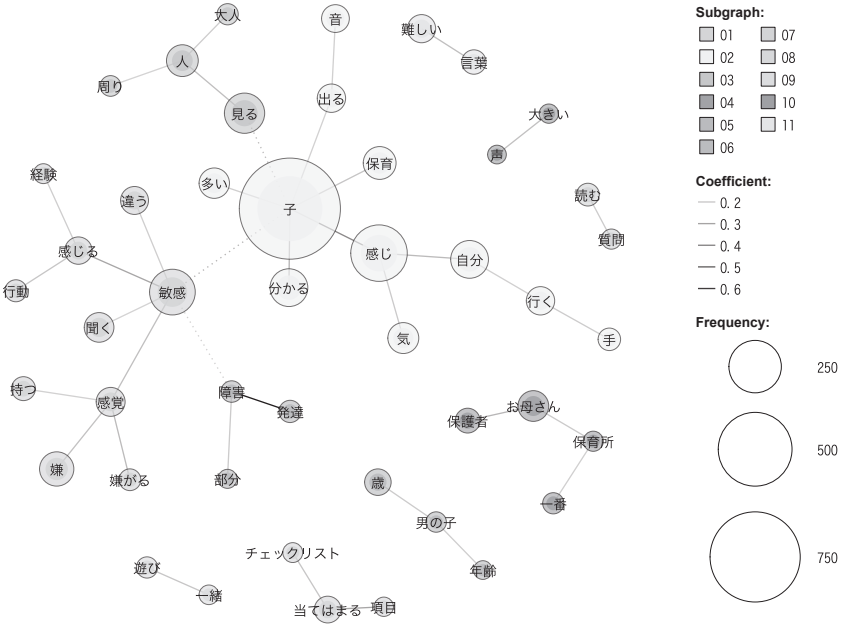


**図１　共起ネットワークグラフ**

(3) 階層的クラスター分析

階層的クラスター分析では抽出された語の類似度をデンドログラム（樹状図）から視覚的に探索することができる（樋口 2021)。分析には 30 回以上出現した 70 語を対象とした。クラスター数はクラスターの併合水準と分析結果の内容などを総合的に判断し、10 クラスターに設定した（表 3)。

クラスター 1 は「子」「気」「嫌」「泣く」「ダメ」「周り」「見る」「人」「気持ち」などの語から形成されており、周囲の目が気になる、特定の感触を嫌がる、泣いてしまう等、保育現場で見られる【高敏感な子どもの繊細さ】に関するクラスターであると考えられた。

クラスター 2 は「考える」「気づく」「変化」「質問」「読む」の語から構成されており、高敏感な子どもの【思慮深さと些細なことへの気づき】に関するクラ

スターであると考えられた。

クラスター 3 は「言葉」「難しい」「大人」「年齢」の語から構成され、【大人びた言葉】に関するクラスターであると考えられた。

クラスター 4 は「男の子」「歳」「タイプ」「多い」等の語から構成され、インタビュー時に【保育士が想起した高敏感な子どもの事例】に関するクラスターであると考えられた。

クラスター 5 は「遊ぶ」「遊び」「一緒」「好き」「友だち」「保育士」の語から構成され、【高敏感な子どもと遊び】に関するクラスターであると考えられた。

クラスター 6 は「大きい」「声」「苦手」「嫌がる」「保育所」「手」「音」「お母さん」「保育所」などの語から構成されており、大きな声や音、他児と手をつなぐなど【高敏感な子どもが苦手なもの】に関するクラスターであると考えられた。しかし、クラスター 6 については「お母さん」「保育所」など【高敏感な子どもが苦手なもの】との直接的な関連が見出せない語も含まれた。

クラスター 7 は「発達」「障害」の 2 語で構成され、【発達障害】に関連するクラスターであると考えられた。

クラスター 8 は「チェックリスト」「項目」「当てはまる」の 3 語から構成され、インタビュー時に使用した【HSC チェックリスト】に関するクラスターであると考えられた。

クラスター 9 は「経験」「感覚」「敏感」「感じる」の語から構成され、【保育士が経験上感じた高敏感な子ども】に関連するクラスターであると考えられた。

クラスター 10 は「先生」「行動」「対応」「保育」「話」などの語から構成され、【保育における対応】に関するクラスターであると考えられた。

これらクラスター 1 からクラスター 8 までの 8 クラスターについては、概ね保育士が保育場面でとらえる高敏感な子どもの姿に関する語句でまとまっていた。一方、クラスター 9 とクラスター 10 についてはインタビュー時の全般的な対話において頻出した語が集まったと考えられた。

**表3　階層的クラスター分析結果**

| クラスター1 | クラスター2 | クラスター5 | クラスター8 |
|---|---|---|---|
| 分かる | 考える | 遊ぶ | チェックリスト |
| 感じ | 気づく | 遊び | 項目 |
| 子 | 変化 | 一緒 | 当てはまる |
| 自分 | 質問 | 好き | |
| 気 | 読む | 友達 | |
| 嫌 | | 保育士 | クラスター9 |
| 違う | | | 経験 |
| 前 | クラスター3 | クラスター6 | 感覚 |
| 入る | 言葉 | 大きい | 敏感 |
| 泣く | 難しい | 声 | 感じる |
| 駄目 | 大人 | 苦手 | |
| 強い | 年齢 | 嫌がる | |
| 周り | | 一番 | クラスター10 |
| 見る | | お母さん | 先生 |
| 人 | クラスター4 | 保育所 | 行動 |
| 気持ち | 男の子 | 行く | 対応 |
| 部分 | 歳 | 手 | 具体 |
| 持つ | タイプ | 出る | 保育 |
| | 多い | 音 | 話 |
| | 見える | | 聞く |
| | 特に | クラスター7 | お話 |
| | 本人 | 発達 | 保護者 |
| | 困る | 障害 | |

## Ⅳ　考察

保育所保育士が経験している高い敏感性を持つ子どもの保育の実際について、計量テキスト分析を用いて把握した。結果、保育士らは「とても敏感である」と認識する子どもたちの保育経験を有しており、乳幼児期の保育場面では、他の子どもとは違うと感じられる感覚をもつ高敏感な子どもが存在することが理解できた。

保育場面で観察される高い敏感性をもつ子どもについて、共起ネットワーク分析からは、保育場面で観察される高敏感な子どもは他児とは異なる感覚の敏感さをもち、周囲や人をよく見るなどの特徴が推察された。また、階層クラスター分析では、いくつかのクラスターに集まった語の特徴から保育士がとらえる高敏感な子どもの姿が示された。例えば、クラスター1【高敏感な子どもの繊細さ】、クラスター2【思慮深さと些細なことへの気づき】、クラスター3【大人びた言葉】、に子どもの特徴に関連する語がまとまった。テキストデータか

ら文中の語の使われ方を確認すると、高敏感な子どもは気になることが多い、泣く時間が長い、強く言われると泣く、周囲の人をよく見ている、些細な変化に気づく、保育士への質問が多い、保育士の心を読む、年齢のわりに難しい言葉を使う等の行動が観察されていた。またクラスター5【高敏感な子どもと遊び】、クラスター6【高敏感な子どもが苦手なもの】からは、一人遊びを好む傾向や遊びなどに保育士の介在を要すること、大きい声、音に過敏であることなどが読み取れた。

これらはいずれもAronが提示するDOES（SPSの高い人の特徴である4つの側面）に部分的に該当していた（Aron 2014）。難しい言葉の使用や質問の多さは「処理能力の深さ（Depth of processing）」から生じる行動として捉えることができ、一人遊びを好む傾向は「過剰な刺激を受けやすい（being easily Overstimulated）」ため自分の時間や静かな遊びを必要とする特性と重なる。保育士の心を読む、泣く時間が長く、強く言われると泣いてしまう等は「感情の反応性と共感性の高さ（being both Emotionally reactive generally and having high Empathy in particular）」から、そして声や音への過敏性、気になることが多く、変化に気づく傾向は「些細な刺激を察知する（being aware of Subtle Stimuli）」特性として理解することができる。しかし、今回のインタビューガイドにはHSCチェックリスト（表1）を掲載していたため、上述の結果に何らかの影響を与えた可能性は否定できない。このことはクラスター8【HSCチェックリスト】の語で「チェックリスト」「項目」「あてはまる」の語がまとまったことからも推測される。

一方、「発達」「障害」の語のつながりが共起ネットワーク、クラスター分析においてそれぞれ確認された。インタビューでは子どもの過敏性は自閉症スペクトラム症（ASD）や注意欠如多動性症候群（ADHD）の診断、またはその疑いがある子どもを想定して語られたケースがあったため【発達障害】として語がまとまったことが考えられる。Aronは多くのHSCがADHDやASDとして誤診されている可能性を指摘しており（Aron2002＝2015）、HSCと発達障害の間には相違や類似点が報告されている。例えば、BiancaはHSCの背景となる感覚処理感受性（SPS）とADHDは重複する部分があることをふまえたうえで、

SPS は環境刺激や社会的刺激に対して高敏感な人に見られる生物学的気質特性であり、ADHD は不注意、多動性、衝動性を特徴とする神経精神疾患である点において両者は本質的に異なると述べる（Bianca 2022）。保育所などの乳幼児期の保育現場では発達障害の診断または疑いのある子どもをふくめ、感覚過敏傾向がある子どもは一定数在籍しており（町田ほか 2020）、特性や対応方法などについて保育士らの理解は進んでいる。一方、高敏感な気質を示す感覚処理感受性や高い敏感性を持つ人に関する認知は低く、先行研究も十分ではない（岩川 2022；山本 2022）。HSC 概念が広く認知されていない現状では、発達障害のある子どもの特性との弁別は難しいことが推測される。今後は HSC の正確な理解を促進するために、保育所における HSC 尺度などの作成を検討することも必要であると考えられた。

## Ⅳ　結語

本研究では高い敏感性のある子どもの保育の実際について明らかにすることを目的とした。保育所保育士らは高い敏感性をもつ子どもの保育経験を有しており、それらの子どもたちは深い処理能力、過剰な刺激を受けやすい、感情的に反応しやすく、共感性が高い、些細な刺激を察知するなど、HSC の特性に該当する行動が保育場面で観察されることが示唆された。また、生得的に敏感な感受性を示す気質をもつ子どもである HSC と発達障害のある子どもの特性は重複する部分もあることから、HSC に対する適切な支援のためには、保育現場において HSC 理解が促進されるための方法を検討していく必要がある。

### 謝　辞

インタビュー調査にご協力を賜りました保育士の皆様、また調査実施にご快諾を賜りました施設長ほか関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

なお、本研究は JSPS 科研費 JP20K02285 の助成を受けたものです。

### 引用文献

Aron, E. N.（2002）. The highly sensitive child: Helping our children thrive when the world

overwhelms them. Broadway Books. New York.『ひといちばい敏感な子』明橋大二訳, 2015, 1 万年堂出版 .

Aron, E. N. (2014). The Highly Sensitive Child: Author's note, 2014

Aron, E. N., & Aron, A. (1997). Sensory-processing sensitivity and its relation to introversion and emotionality. Journal of Personality and Social Psychology, 73, 345-368.

Baryła-Matejczuk, M., Artymiak, M., Ferrer-Cascales, R., & Betancort, M. (2020). The Highly Sensitive Child as a challenge for education – introduction to the concept. Problemy Wczesnej Edukacji, 48 (1), 51-62.

Belsky, J., & Pluess, M. (2009). Beyond Diathesis Stress: Differential Susceptibility to Environmental Influences. Psychological Bulletin, 135 (6), 885-908.

Acevedo, B. (2022) What is Sensory Processing Sensitivity? Traits, Insights, and ADHD Links. ADDITUDE -Inside the ADHD mind, https://www.additudemag.com/highly-sensitive-person-sensory-processing-sensitivity-adhd/ 04.10.2022.

樋口耕一 (2021)「社会調査のための計量テキスト分析 (第 2 版)」ナカニシヤ出版 .

岩川祐依 (2022)「日本における感覚の感受性に関する研究の動向―感覚処理感受性、および Highly Sensitive Person の研究を中心に―」甲南女子大学大学院論集, 20, 21-31.

岐部智恵子 (2019)「敏感性の高い子どもと環境からの影響：感受性反応理論からの示唆」子ども未来紀行：学際的な研究・レポート・エッセイ https://www.blog.crn.or.jp/report/02/265.html (2021 年 10 月 1 日)

串崎真志 (2018)「高い敏感性をもつ子ども (Highly Sensitive Child) の理解：自閉症・高敏感者・エンパス・不登校」関西大学人権問題研究室紀要, 76, 27-55.

町田唯香・橋本創一・堂山亞希・渕上真裕美 (2020)「感覚過敏のある幼児への養育に関する調査」東京学芸大学教育実践研究, 16, 113-117.

長沼睦雄 (2017)『子どもの敏感さに困ったら読む本』誠文堂新光社 .

長岡真意子 (2019)『敏感っ子を育てるママの不安がなくなる本』秀和システム .

西野美佐子 (2005)「母親の教育的かかわりと幼児の気質的特徴との関連に関する研究」保育学研究, 43 (2), 119-128.

Pluess, M., Assary, E., Lionetti, F., Lester, K. J., Krapohl, E., Aron, E. N., & Aron, A. (2018). Environmental sensitivity in children: Development of the Highly Sensitive Child Scale and identification of sensitivity groups. Developmental Psychology, 54, 51-70.

武井祐子・寺崎正治・門田昌子 (2006)「幼児の気質特徴が養育者の育児不安に及ぼす影響」川崎医療福祉学会誌, 16, 221-227.

Slagt, M., Dubas, J. S., van Aken, M. G., Ellis, B. J., & Deković, M. (2018). Sensory processing sensitivity as a marker of differential susceptibility to parenting. Developmental Psychology, 54, 543-558.

杉本景子 (2021)『一生幸せな HSC の育て方』時事通信社 .

山本佳代子 (2022)「敏感性の高い子どもの育ちへの支援」西南学院大学人間科学部論集, 17 (2), 215-226.

西南学院大学人間科学部社会福祉学科